

令和4年度 学校評価の結果と分析及び課題

I 調査の概要

	生徒	保護者	教職員
回答者数	624	593	58
回答率	94.5%	89.8%	98.3%
調査日	令和4年11月18日	令和4年11月9日～22日	令和4年11月14日～25日

II 本年度の重点目標

1. 確かな学力と主体的に考え行動できる力の育成

- (1) 基礎学力の定着と学習意欲の向上への取組
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【アンケート結果の分析及び課題】

今年度は少しずつ行事も実施できるようになり、生徒はメリハリのある学習活動が行えるようになった。「学力向上のために努力している」とする生徒は昨年より5%増えた。定期試験や資格・検定試験前の取り組み状況を見ると、何をやればいいのか、目的と手段がはっきりし、成果が目に見えるものであれば、学習に取り組める生徒が多い。また、「専門性を深めている」や「検定や資格取得に取り組んでいる」とする生徒も増加しており、専門高校としての一定の役割は果たしているものと自負している。一方、近年就職や進学の見学試験で学力が問われる機会も多い。基礎学力と専門性の両立をめざして、改善と工夫を弛みなく行っていくなくてはならない。

2. ルール・マナーを守る態度と自己指導能力の育成

- (1) あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、時間厳守の指導の徹底
- (2) 交通ルールへの遵守と交通安全指導の徹底
- (3) 自己有用感に裏付けられた自尊感情の育成
- (4) 自他を敬愛する心、奉仕する心の育成

【アンケート結果の分析及び課題】

積極的なあいさつやきちんとした服装頭髪、交通ルールについて、多くの生徒ができています。しかし、一部であるが、意識の低い生徒も見られる。今後、指導の徹底や工夫改善が必要である。また、いじめや生徒の学校不適応を早期に発見し対応するため、情報交換会、なんでも相談室、カウンセリングの充実等、教育相談機能の充実に努めた。生徒の抱える問題は多岐にわたっている。生徒それぞれに寄り添い、問題の早期発見や自己肯定感を向上させる取り組みを根気よく継続することが必要である。教職員全員の意識を高め、保護者や外部組織との連携を密にする取り組みを継続していきたい。

3. 自己の在り方生き方を考えるキャリア教育の実践

- (1) 年間を通した体系的なキャリア教育の実践
- (2) 専門性の深化と進路意識・目的意識の向上
- (3) 検定や資格取得等とおおむねの自己肯定感の高揚

【アンケート結果の分析及び課題】

求人情数がコロナ禍前を超えたこともあり、生徒の希望とおおむねマッチングできた。地元企業を含め県内外で卒業生が定着し信頼を得ていることが一因である。しかし、年々就職希望者が減少傾向にある。職業（地元企業）への理解を深める指導を実施することで、生徒の働くことに対する意識改革を図ってきたい。進学においても、早い段階で希望する学校に全員が合格することができた。学年が上がるごとに進路への意識が高まっているが、全体では38%の生徒が「進路活動」に積極的に参加していないと回答している。早い段階から進路意識を向上させるため、生徒の実態に合わせて進路行事の精選・補充をし、企業や上級学校について十分な情報提供をしていきたい。

4. 保護者や地域の信頼に応える学校づくりと特別活動の活性化

- (1) 地域連携事業等による保護者や地域の信頼に応える学校づくり
- (2) 逞しい心と体、豊かな人間性の涵養
- (3) 危機管理意識の高揚

【アンケート結果の分析及び課題】

学校行事については、感染防止対策を徹底しながら実施することを基本とし、今年度は年度当初の計画通りに実施できた。今後も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、なるべく生徒の主体的な活動を確保しつつ、学校行事をできる限り安全に実施したい。また、ICTの活用等の工夫により、地域や関係機関との協力体制を整え、連携を図りながら教育活動を行ってきたい。

今年度の新入生の部活動加入率は、昨年度より8.7ポイント増加した。感染防止を徹底しながら活動できるようになったことが大きな要因ではないかと推測される。部活動の加入率を上げるため、魅力的な部活動を目指し、活動内容や時間の見直しも含めて検討していくことが必要と考える。また、本校ホームページに定期的に記事を掲載することで、開かれた学校づくりを進め、保護者や地域の信頼に応える学校としていきたい。